

オルガノン要約（§ 178～187）

§ 178 症状が少なくても、SRP 的な症状が含まれていた時には、レメディは治癒的に働くことだろう。

§ 179 しかしやはり部分的にしか適合しないことの方が多い。

§ 180 不完全な（SRP の適合がない）レメディを用いれば、レメディが持つ特有の付随的な症状を生み出すだろう。しかしその症状は病気そのものから発した症状である。

§ 181 そうして現れた付随的な症状は、レメディによって引き起こされたものだが、実はその人の病気そのものから現れたものでもある。つまりその症状の総体が現在の真の病的状態であり、それを治療しなければならない。

§ 182 現れてる症状が少ないために最初のレメディは不完全にならざるを得ないとしても、その都度適切なレメディを選んで行くことが、病気の内容を完全にすることに役立つ。

§ 183 最初のレメディがもはやそれ以上働かなくなったら、現状の病状を記録し、それに基づいて次のレメディを見つければよい。

そのレメディは今の状態にまさに適したものであり、症状の数も増え、症状像としてより完全になっているはずであるから。

§ 184 これを回復するまで続けること。

§ 185 局所的＝外部の病気は、それだけで存在しているわけではない。

§ 186 外傷などの局部的症状に外科的処置をするのは必要。

§ 187 しかし些細な傷から始まる症状の中には、内的な原因によるものもある。それに対して、局部的治療だけで済まして来たのがこれまでの医学である。